

区別	項目	改正点、追記(赤字)、削除(横線)
概要	部門について (8ページ)	<b>リトルリーグ インターナショナル(50-70)野球部門</b> 11～13歳の選手を対象としている。この部門は、50フィートの投球距離と70フィートの塁間を使用し、11歳～13歳選手のための過渡的な部門として設置された。またワールドシリーズを含む最大限の規模のトーナメント大会が提供される。
公認規定	IV-選手(g) (36ページ)	各リーグは、選手、監督、コーチのデータを、毎年リトルリーグ本部に提供しなければならない。情報形式での登録は4月1日までに、チーム名簿は6月5日までに提供しなければならない。
	VI-投手(d) 休息日 (40ページ)	<b>例外</b> ：投手が打者に対して(0時を過ぎて)休息しなければならない日に到達した場合、その投手は次のいずれかになるまで投球を続けることができる。 1.その打者が出塁する。 2.その打者が退く。 3.第3アウトが成立し、そのインningが終了する。 投手が打者に対しての間に休息日となった場合でも、その投手が別の打者へ投球する前に交代すれば、その投手は(違反ではなく)単に休息日をとればよいだけである。
公認競技規則	4.16 (85ページ)	次のような理由で試合を行うことができない場合、ただちに没収試合の根拠となるものではないが、理事会に問い合わせ判断を仰がなければならない。 (1)一方のチームが競技場に9人の選手をそろえられない。 (2)監督あるいは監督代行をできる大人が一人もダッグアウトに入ることができない。 注：各チームの選手が9人に満たない状態で、試合を開始することはできない。 注：各チームの選手が9人に満たない状態や、成人の監督あるいは監督代行がいない状態で、試合を開始することはできない。
公認競技規則	8.01(f) (113ページ)	投手は、球審、打者および走者に、投手板に触れる際、どちらかの手にグラブをはめることで、投球する手を明らかにしなければならない。投手は打者がアウトになるか走者になるか、攻守交代になるか、打者に代打が出るか、あるいは投手が負傷するまでは、投球する手を変えることはできない。投手が負傷したために、同一打者の打撃中に投球する手を変えれば、その投手は以降再び投球する手を変えることはできない。投手が投球する手を変えたときには、準備投球は認められない。投球する手の変更は、球審にはっきりと示さなければならない。

公認競技 規則	8.05 反則投球 (115ページ)	<p><b>注：</b>  <b>インターミディエイト(50-70)部門/ジュニア/シニア/ビッグリーグの場合：</b>      塁に走者がいない状態で投手が反則投球を行った場合、イーガル・ピッチとコールされる。</p> <p><b>リトルリーグ(マジヤ)とマイナーリーグの場合：</b>      上記の状況(1項とm項は除く)で投手が反則投球を行った場合、走者の有無にかかわらずイーガル・ピッチとコールされる。リトルリーグ(マジヤ)とマイナーリーグにはホークは存在しない。</p> <p><b>イーガル・ピッチに対するペナルティ：</b>      投球は、ボールと判定される。イーガル・ピッチの後もプレーが継続している場合、攻撃側の監督は球審に対しイーガル・ピッチの罰則適用を辞退し、そのプレーを受け入れると進言することができる。その選択はプレーの直後に行わなければならない。しかしながら、打者がイーガル・ピッチの投球を打って安全に一塁に達し、すべての走者が少なくとも1個の進塁をしていれば、プレーはイーガル・ピッチがなかったものとして継続される。</p> <p><b>注：</b>イーガル・ピッチの投球が打者に当たった場合、その打者は1塁へ進塁する。</p> <p><b>ホークに対するペナルティ：</b>ホークはインターミディエイト(50-70)、ジュニア、シニア、ビッグリーグのみ適用される。</p>
トナメント 規則及び ガイドライン	『夜間の時間 制限』 (T-11ページ)	<p><b>注1:</b>新しいインングは、前のインングが3アウトで完了した瞬間に始まる。</p> <p><b>注2:</b>トナメント委員長や役員、トナメントチームが上記に示された夜間の時間制限を守らなければならない。試合中、中断中、試合再開のいかなる場合においても、制限時間に達した場合は試合を終えなければならない。トナメント規則11に従って試合中断の間に夜間の時間制限に達した場合、試合を継続してはならない。規則で定められたように、翌日以降に再開するか、終了としなければならない。</p>
トナメント 競技規則	3.試合規定 (T-15ページ)	<p>a. トナメント(全部門、全レベル)において、次打者がバッターボックスに入る前に前打者が不正なバット(規則6.06(d)項参照)を使用したことが判明した場合は下記のペナルティが科される。</p> <p>i. 打者はアウトになる。(守備側の監督は、ペナルティの適用を辞退し、プレー続行を進言できる。その選択は、プレー後直ちに行わなければならない。)</p> <p>ii. 当該チームの監督は退場処分となる。規則に抵触した打者も退場となり、さらに、その試合中攻撃側の大人のベースコーチ1人がベースコーチに入らなくなる。</p>
	9.全員出場義務 (T-20ページ)	<p>トナメントチームの試合時に、13名以上の選手が参加している場合はチーム名簿上のすべての選手が、<b>守備において最低3つの連続したアウト</b>、攻撃において少なくとも1打席は試合に参加しなければならない。試合時に12名以下の選手しか参加していない場合は<del>チーム名簿上のすべての選手が</del>、<b>守備において最低6つの連続したアウトと</b>、攻撃において少なくとも1打席は試合に参加しなければならない。</p>

【2013年の改正を受け、関係者が特に注意すべき事項】

トナメント競技規則 : 3. 試合規定の不正バットの使用(ペナルティの強化) 9. 全員出場義務の変更